

9月3日(木曜日)「安息日論争(2)」

【新改訳 2017】

ルカ 6.6-11

「イエスは人々に言われた。『あなたがたに聞きますが、安息日にしてよいのは、善を行うことなのか、それとも悪を行うことなのか。いのちを救うことなのか、それとも失うことなのか、どうですか。』」(9節)

これは、昨日とは別の安息日に、イエスが会堂で右手のなえた人を癒そうとされた時、律法学者たちの思いを知って語られたことばです。律法学者たちは、安息日には病んでいる人を癒すこともすべきではないと考えたのです。しかし主は、病んで救いを求めている人を助けないことは悪を行い、いのちを失うことになると言われました。

今日、主の日(日曜日)を聖日として守るという時、私たちも思い違いをしてはなりません。「してはいけないこと」を先に考える消極的な態度ではなく、「なすべき善いこと」を先に考え、本当の意味で積極的に過ごしたいものです。

まず、神を礼拝し、心身の休息を得、愛のわざに心し、  
祝福される日となるように過ごそうではありませんか。

～祈り～

主よ。神を礼拝し、心身の休息を得、愛のわざに心し、主の日が  
祝福される日となるように、積極的に過ごすことを得させて  
ください。

**【学びのために】**

創世2.2、出エジプト 16.22-30 参照。